

PRESS NEWS

大学出版会とは何か

出口利定
東京学芸大学長、東京学芸大学出版会理事

大学出版会（出版部）とは一体何か？ 商業出版社と何が異なるのか？ という問いに対して、その理念、組織、歴史……を明確に答えられる大学人は、それほど多くはないだろう。という私もその一人である。どのような出版物をいかなる理念のもとに出版するのか、について資料を漁ってみた。答えになるような記述は断片的にはいくつかあったが、まとまった形で答えていただいたのは、大学出版部協会が発行している季刊誌『大学出版部』の記事であった。漠然としてしか大学出版会について知らない者にとっては良い機会であると思い、少々押し売りの紹介したい。

大学出版部の使命は、出版を通じて大学の諸機能を社会に普及することにある。“知識を広め、遠く深く”とはジョンズ・ホプキンス大学の総長ダニエル・ギルマンが出版部開設にあたって述べた言葉だが、これほど端的に大学出版部の理念を語ったものはないだろう。具体的には次の四つの柱に集約される。

(1) 大学のカリキュラムに即した講義テキスト資料
明治 19 (1886) 年、東京専門学校出版局（早稲田大学出版部の前身）が「学校で行われる講義を出版し学校の教育を学校外に及ぼす」ことを掲げて以来、わが国大学出版部運動の主流をなしている。

(2) 研究開発の成果としての専門学術書
もっぱら学術ならびに教育目的のために奉仕すべきことを謳っており、大学出版部が時に市販性を欠く書物の刊行に踏み切るのはこの故であり、この点が商業出版社と性格を異にする最も大きな特徴であろう。これがさまざまな公的機関や財団が支援する根拠となっている。

(3) 大学の公開の趣旨にもとづく学術的啓蒙書
(4) 学生の人生の伴侶となりうるような教養書
第三、第四については開かれた大学にとって欠かせぬ部門であるだろう。それぞれのスクールカラーにしたがって特色あるシリーズ、選書、双書が発行され、

一般出版社と企画力を競いあっている。

今日ほど、「大学とは何か」について議論が噴出している時代は過去になかったのではないかと思う。1991 年の大学大綱化、2004 年の国立大学法人化以来、大学はその組織、財務、教育、研究において一変し、多様化の一途を辿ってきた。一方、別の見方をすればこの多様化は大学の解体化と言っても過言ではない。様々な社会環境の変化に敏感に対応し自己変革することが苦手な大学（人）にとって、自らの在り方を厳しく問い直された時間でもあった。

大学を取り巻く環境変動の振幅が大きく時局に左右されがちな時代にあって、大学出版会がもつ発信力は重要な意味をもつ。つまり大学の顔としての広報であり、大学、大学構成員の水準、厚みを示すバロメータでもある。

東京学芸大学は教員養成大学として国内最大級の単科大学であり、全国の教員養成大学・学部の基幹大学としてその機能を果たしてきた。何よりも質の高い高度職業人としての教員の育成をミッションとしてその義務が我々には課せられている。多様な専門領域の教員集団を有する本学の強み、特徴をもっと世に知らしめる必要があると常々考えているが、一つには出版会の積極的な活用をもっと考えてよい。

ただ全学に対する出版会の PR が不足している印象もある。先行き不安な材料が多くある中、PR にくい面もあるのだが、大学出版会とは何か、これからどこへ向かうのか、大学との関係は何か、を明確に示していけるとよいと思う。世の中はこれまでに経験したことのないほどの出版不況と言われているが、優れた著書は誰しもが認めており、それなりに部数を伸ばしているのである。

1 書籍の刊行ほか

2013年度中に刊行の新刊書籍は、以下の2点でした（以下編著者の敬称は略させていただきます）。

(1) 書籍

① 岩田康之・別惣淳二・諏訪英広 編
『小学校教師に何が必要か
—コンピテンシーをデータから考える—』
2013年7月13日発行 価格1,944円（税込）
ISBN：978-4-901665-33-9

② 国語科コアカリキュラム研究プロジェクト 編
『国語の授業の基礎・基本
—小学校国語科内容論—』
2014年3月25日発行 価格1,728円（税込）
ISBN：978-4-901665-34-6

(2) 増刷書籍

① 坂井俊樹・小瑤史朗・重松克也・竹内裕一 編
『社会科教育の再構築をめざして
—新しい市民教育の実践と学力—』
2013年7月15日2刷発行 価格3,024円（税込）
ISBN：978-4-901665-14-8

② 東京学芸大学 編
『東日本大震災と東京学芸大学』
2014年3月20日2刷発行 価格1,836円（税込）
ISBN：978-4-901665-32-2

2012年度の新規刊行が8点だったことから勘案すると、冊数としては低調でしたが、2013年度刊行予定が今年度（2014年度）に延びたものもあります。ですので、冊数にとらわれず、高水準で且つ一定冊数の刊行を維持し続けることに腐心して参りたいと存じます。

また、上記のように増刷書籍が2点あり、書籍の質の高さを示してくれているとも考えられます。一般出版社並みの印税をお支払いできるようなベストセラーが、本学出版会からも生まれることを祈念する次第です。

2 営業・宣伝、販売活動

まず販売活動につきましては、4月4日の「入学式」に始まって、「大学説明会」（7月19日）、「ホームカミングディ」（11月2日）、「学校図書館げんきフォーラム」（11月16日）、「社会・学校改革の過渡期における教員養成を考えるシンポジウム」（12月7日）など、行事や各種イベントに併せて出店いたしました。

続いて営業・広告については、朝日新聞（11月10日）、日本経済新聞（10月13日）などを含め、年間で11誌に広告掲載いたしました。また、学会は媒体を吟味する必要上、日本教師教育学会（第23回研究大会プログラム）に留まりましたが、大学出版部協会やモルゲンの機関誌などにも広告を掲載させて頂き、可能な限り宣伝に努めました。

3 管理・運営、販売など、出版会の体制に関して

(1) 編集体制の現況および問題点

現況の編集・組版担当者は1名で、週3日勤務という状況です。したがって繁忙期には、必然的に人員不足が発生しますが、手が足りない場合、適宜、外部の編集者、組版担当者に関わってもらう体制は、未整備のままの状態です。

予算の圧倒的不足も相俟って、依頼可能な編集者は1名のみで、組版担当者に至っては0名という状況です。どうしても必要な場合には、製本会社に依頼する他に手立てが無いという窮状です。そのため、インデザイン等を装備したコンピューターのうち1台は、未使用の状態が続いております。

以上を踏まえて、問題点として挙げられるのは、

- 編集者、組版担当者の不足。社員として雇用するための予算を確保できていない。外部者を常に確保できる状況になく、また確保したとしても不安定なため運営に支障の出る懸念もある。

- 事務局会議（例会）を毎月開くようになり、経営体制は徐々に整いつつあるが、まだ積極的な出版企画を打ち出す余裕がない。持ち込み企画がほとんどで、企画能力をつける方策の検討が必要。

といった点が考えられましょう。

(2) 販売体制の現況および問題点

基本的には取次店 JRC を中心とした従来通りの販売体制を踏襲しています。各取次店の評価は難しいのですが、取り敢えず現状では「大きな問題はない」と考えてよいのではないのでしょうか。

問題点としては、アマゾンにアップロードされた後に商品が流通するのが著しく遅いことが多いことが、まずは挙げられます。この件に関しましては、昨年までと同様、こちらから JRC へ連絡して対応してもらっていますが、解消されてはおりません。

また、学会、卒業式、入学式、大学説明会での直接販売を、可能な限り実施してきておりますが、年度を追う毎に、本学の協力が弱まる傾向となり、難しい状況となっています。

(3) 会員管理の現況および問題点

会員数は 2014 年度 6 月末現在で 125 名です。(2013 年度新入会員 3 名、退会者 5 名。但しうち 2 名は逝去者)。会費納入状況は、92.5 口で 370,000 円 (2014/3/31 現在) でした。

会費徴収に関しましては、前年度会員への会費督促を行った結果、現会員数が確定し、さらに精確に会員の状態を確認した結果、実際の納入は 100 口を割り込むことになりました。このことは、会員数も現在の 125 名からさらに減の兆候がみられるということであり、出版会維持には厳しい状況が続いていると言わざるを得ません。

これらを踏まえた会員の動向の問題点としては、

- 会員の減少傾向は変わっていない。背景には、新規入会者が減少し、新任・新来の教員に出版会の存在が周知されていないということが挙げられる。

- 定年退職の学会会員が増加し、かつ退職と同時に退会される方も増えてメールアドレスがキャッチアップできなくなると、これらの方への連絡には学内便等が使えないことから郵便に頼らざるを得ず、結果通信費がかさむことになる。

などが挙げられます。手をこまねいているばかりにもいかないため、会員に対する新しいサービスとして、卒業生にも会員となる資格を認め、博士論文の出版要請も認めることとしました。退会者を減らし入会者を増

やすことは、出版会にとって死活に関わる大問題だと言えますでしょう。

4 総合所見

2011 年度までの経営上の重大な問題点は、(1) 目標の出版件数の未達成、(2) 営業活動の不足、その結果としての赤字経営でありました。2012 年度は出版件数がたまたま多かったため、(1) の問題は達成されたかに見えましたが、2013 年度は企画不足により再び未達成となりました。また (2) 営業活動につきましては、全国規模の新聞や学会等への広告掲載を合計すれば相当数の広告を掲載することができました。それにかかった経費は約 50 万円 (2012 年度は 30 万円) でしたが、営業業務を担当する者がいない状況を考慮すると対宣伝効果としては妥当な出費であったと考えられましょう。

2011 年度の新刊書の増加により、積立金から切り崩した 200 万円を戻すことが一時的にはありますが、達成できました。しかし 2013 年度は、新刊書が 2 冊となり、売上げ減の影響が出たことと、2014 年度 4 月以降に出版となった新刊書の制作経費とにより、負債が 100 万円程度に上りました。

現在のところ、会員による会費収入は重要な収入源であり、経営上依存せざるを得ない状況にあります。2013 年度末に未納会員全員に依頼書を送付し、退会者が多数出たものの会員数が確定したことは大きな改善事項でありました。しかしながら、新規採用教職員に対する勧誘は未だ不十分な状態で、2014 年度以降も引き続き課題として明記しておきたいと考えます。また、退会者についてこれまで明確な認定がなされておりました。退会規定を整備し、会員の退会を正確に把握できるよう制度を改善しなければならないと考えられます。

以上のことから、2014 年度以降に向けての課題は、(1) 事業収益の増加、(2) 会員加入の向上、(3) 効果的な営業施策、といったところになりましょう。

新刊

学校社会の中のジェンダー

教師たちのエスノメソドロジー

木村 育恵

A5判 240頁 2,484円(税込)

ISBN 978-4-901665-35-3

本書は、学校教育や教師集団などの学校社会の中に、なぜ「ジェンダーに敏感な視点」の導入や根づきが進みにくいのかを、構造的に明らかにしました。著者は、とくに教師のふるまいや行動、思考のパターンの複合体としての「教師文化」に着目します。教育実践における質の問い直しと、よりよい制度化を内側から考え実践し続けるためにぜひ読んでほしい一冊です。



編集後記

PRESS NEWS 18号をお届けします。現事務局長の佐藤正光教授のもと、事務局を支えて下さっている生田さん・三ツ石さん、それに事務局員たる教員有志で、細々とではありますが出版会の活動は維持されています。正直なところ、会費収入が減り、教員の多忙も相俟って活動が沈滞し、思うように本が出せない中、極めて厳しい状況に晒され続けているのが出版会の現況です。しかし、「苦しいとき優雅にやせ我慢できる人間は上等である」と、何処かの台詞にもあるように、そうした泰然自若たる心意気も必要なのではないのでしょうか。幸い前事務局長の藤井健志副会長をはじめ、佐藤教授を囲む教員たちには、苦しい中で集まり続けているが故の、同意識にも似た信頼や結束の感情が生起しつつあるように思えます。こうした感情の萌芽を拡大して、大学における「同僚性」を担保できないものか。そんなことを考えます。どうか学内の先生方におかれましては、会員になって頂くことはもとより、事務局にお力添え願ひ、同僚性の輪を広げていく手助けをして頂けないかと存じます。事務局へのご参加を、心よりお待ち申し上げます。(S.K.)

大学出版会を支える人々
三ツ石純子

近刊

「東アジア的教師」の今(仮)

東アジア教員養成国際コンソーシアム・編集委員会 編

小学校社会科を教える本(仮)

上野・大石・椿 編

みんな大好き! 時代劇(仮)

大石学 他

出版会で事務・経理をしております三ツ石です。8月に事務局が北講義棟(N棟)の3階に移転しました。ようやく慣れました。お手洗いの改装も重なったのでちょっと嬉しいです。

出版会の事務局は通常月・木の10時～16時は私三ツ石が、火・水・金12時～18時は編集をしている生田さんが勤務しているのですが常勤ではないのでお互いが自分の勤務日でない日に支障が出ないよう情報の申し送りを密にする努力をしています。申し送りノートは4冊目になりましてぎっしり書かれています。それでも残念ですが支障がでている現状なのでメール、お電話でのお問い合わせなどを「この件は今どういう状況か?」を一目で分かるようなボードを今月設置しました。いい効果がでると期待しています。

新しい取組みといえばもう一つ、8月から編集委員の先生方が月一で行っている出版会定例会に開催日が勤務日と重なった場合、書記として加わる事になりました。2回ほど参加させていただいたのですが、業務をしていて困っている事、承認の是非が必要な事がその場で議題として取り上げてくれるので助かります。新刊の進捗状況も分かるのでいい試みだと思っています。

これも最近の事なのですが、会員の方に絵葉書のご注文をいただき、「会員の方は2割引きになりますよ」とお伝えしたらご存知なかったようで喜んでらっしゃいました。あまり周知されていないようなのですが、「会員の方は出版会の書籍を2割引で購入できます!(教科書販売目的以外)」。平成27年3月に新刊も出る予定ですのでよろしくお願ひいたします。

最後に出版会はいろいろな方々に支えられて成立っています。そのご厚意に貢献できるよう努力する所存です。

〒184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1 東京学芸大学構内 [TEL]042-329-7797 [FAX]042-329-7798

[E-mail]upress@u-gakugei.ac.jp [HP]http://www.u-gakugei.ac.jp/~upress/

東京学芸大学出版会<会報>プレスニュース(第18号)2014年12月17日発行 編集:佐藤正光・藤井健志・腰越滋/レイアウト:生田稚佳